

(様式6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2871700460		
法人名	エム・エフ商事株式会社		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	兵庫県南あわじ市広田広田127番地 (電話)0799-45-0303		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年10月2日	評価確定日	平成19年12月13日

【情報提供票より】 (19年8月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤14人, 非常勤 4人, 常勤換算	9.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての1・2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 ~ 39,000 円	その他の経費(月額)	14,900 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年8月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	8	要介護2	4		
要介護3	5	要介護4			
要介護5		要支援2	1		
年齢	平均 86.9 歳	最低	75 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	翠鳳第一病院・奥田歯科医院
---------	---------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

淡路島の中央部に位置し、提携病院やデイサービスが併設されたホームである。施設建物の色調も明るく開放的な玄関は誰もが立ち入りやすい雰囲気を感じられる。リビングは台所で働く職員が見えたり、田園風景が眺められるなど、人気を感じながらもくつろげる空間となっている。家族や利用者の意見を聞く体制が出来ており、また、月1回利用者全員の状況を確認するよう取り組むなどケアに活かしている。地域との交流や運営推進会議の開催などは難しい面もあるが、様々な面で継続的に努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	病院食を運んでもらう形が主流であるが、おやつに加え、週1回はホームで食事をするようになった。職員が中心となり調理し、配膳や片付け、テーブル拭きなど出来る事を利用者が手伝っている。また、カンファレンスの定期化して行なえるよう改善した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価は管理者が主になって記載し、職員に回覧している。評価を受けた内容は、カンファレンスなどで話し合い、改善策を検討し実施している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は地域の方や家族など人選中であり、実施までには至っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	面会時はケアプランの説明や話し合いを行ったり、家族の意見や苦情を聞く機会を持っている。重要事項説明書にホームの担当者を記載し、電話でも意見を聞く体制もできている。苦情などの対応策や結果を、家族に直接または手紙で説明している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	広報誌に記載されている地域の行事や文化展・学校行事などの見学には参加している。地域からの参加の誘いは殆んどないが、常に挨拶はするよう心掛けており、交流が出来るよう意識している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所全体の理念に基づいてグループホーム独自の理念を掲げている。入居時には本人や家族に詳しく説明すると共に、玄関にも掲示されている。		地域との係りや交流に関する役割も理念の中に明示されることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は折りにふれ説明したり、職員と話し合い、確認し合う機会を持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報誌に記載されている地域の行事や文化展・学校行事などの見学には行っている。地域からの参加の誘いは殆んどないが、常に挨拶はするよう心掛けており、交流が出来るよう意識している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が主になって記載し、職員に回覧している。評価を受けた内容は、カンファレンスなどで話し合い、改善策を検討し取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は地域の方や家族など人選中であり、実施までには至っていない。</p>		<p>地域の区長や民生委員・老人会や婦人会など具体的に声をかけ、今年度中には1回での開催できる事を期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>開設当初から利用料など相談する機会もあり市町村との連携はあるが関わる機会は少ない。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の利用料の請求時に、利用者の日常生活状況や写真入りの「ふれあいホーム便り」を一緒に送付し、家族に様子を伝えるようにしている。面会時には職員から声をかけ、様子を伝える機会を持つようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時にはケアプランの説明や話し合いを行い、家族の意見を聞く機会を持っている。重要事項説明書にホームの担当者を記載し、電話でも意見をもらう体制はある。苦情などの対応策や結果を、家族に直接説明したり、手紙で説明したりしている。受けた意見や苦情を残しておく様式を作成中である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動や離職を最小限になるよう努力している。やむなく離職になった場合は、入居者の様子を見ながら説明を行い、ダメージが最小限になるよう配慮している。家族全体には説明していないが、担当の利用者の家族には説明している。</p>		
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>カンファレンス時に研修を行なっている。また、管理者が中心となり、研修で行なったことを日常ケアの中で何度も振り返りを行なっている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホームのネットワークがあり、現在は参加を検討中である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入院から入所に至るケースが多いが、入院中に1~2回面会に行ったり、ホームの見学にも本人・家族共に来てもらうようにし、本人が納得して入所が出来るよう取り組んでいる。訪問の書式やヒアリングシートも作成して、利用し出来る限り要望を聞き個別に対応できるようにしている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に支援していただいた事に対し感謝を言葉に表したり、一緒に過ごす時間を多くし喜び合え、お互いの感情を感じあえる時間が持てるようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の日常会話の中の言葉を大切にして、一人ひとりの思いや希望を把握するようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の立案時は出来る限り本人や家族の意向を聞くようにしている。問題があるときなどは面会や電話などで家族に状況を伝え、意見を聞くようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>7月から毎月、利用者全員の状況確認の評価を行ない、職員全員が利用者の状態の把握をし、計画にも活かすようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の入退院の移送や洗濯、墓参りの同伴・送迎、などできる限り対応できるようにして、家族の負担軽減に努力している。医療連携加算の体制がとれたところであり、今後活かしていく予定である。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望すればなじみの医師にも受診可能である。医師とは連携をとって情報の共有化が出来ている。往診時の状態は医師や職員から、手紙や電話で家族に報告している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>9月に医療連携加算の認可がおりたところである。現在は家族が最後の看取りを病院でという希望が多い。ホームでは終末期の対応は出来ない事を入居時に本人や家族に説明している。状態が変化したときは医師や家族と相談の上、対応を決めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>研修の中で接遇などを取り入れ、プライバシー保護には注意をしている。利用者の尊厳を大切に、一人ひとりの視点に立った言葉かけや対応に努め、名前の呼び方等はその人らしい適切な呼び方を心掛けている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者がしたいことを言葉や行動で把握し、出来る限り希望にあわせるようにしている。認知症の進行に伴い十分な意思表示が出来ない場面でも、非言語コミュニケーションを取り入れたり、日常の関わりの中で把握するようにし、その人らしい暮らしが出来るよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は週1回ホームで作るように改善している。おやつを作る機会も増やしている。調理は職員が中心となり、味見や配膳、ランチョンマット拭き、片付け等、出来る事を利用者が手伝っている。メニューは利用者の希望を聞き取り入れるようにしている。また、外食をする機会も多く、楽しみの一つとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、日中に2日に1回を基本としているが、希望により毎日の入浴も可能である。夜間に身体汚染があった場合などシャワー浴・足浴・清拭等適宜対応している。入浴前後の体調の変化に注意するとともに、同性介助が出来ない場合でも、プライバシーに配慮した入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の身体状況や力量に応じて洗濯物たたみやテーブル拭き等を行ってもらい、できないところは職員がさりげなく支援している。個々の得意だった事や楽しみだった事を把握し、毎日のレクリエーション等の中に取り入れ、気晴らしの機会となるとともに、できる限り利用者の活力を引き出すよう努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>施設の今年度の目標に「外出する事」を掲げている。利用者からの外出希望が少ないため、行事を外出して行なうよう改善し職員から外食やドライブなど興味が出るよう働きかけをしている。また、リハビリ外出を兼ねて散歩を促したり、玄関まででも移動するなど外出できるよう工夫している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者の状態を見ながら、また安全を確保しながら少しの時間でも入り口の鍵を開放するよう心掛けている。職員間で空間拘束のデメリットについて話し合う機会も持っている</p>		
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>隣接している提携病院との合同で避難訓練を年2回は行っている。病院との連携は取れており、協力体制にある。夜間を想定した訓練も自主的に行えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る</p>	<p>病院から食事が来ている為、食事カロリーは 把握できている。水分補給も大まかには把握 し、個別に記録されている。台所には「食事 の内容（ご飯はおにぎり・朝はパン等）や留 意点」として個別に細やかに表記し、職員間 で統一するよう工夫がされている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室からは外の景色が見渡せ、台所の様子が 伺えるなど五感への刺激となり、季節感も味 わえる。和室の空間や部屋の片隅に椅子が置 かれており、利用者が思い思いの時間を過せ る工夫がされている。ソファは使用しやす い高さのものを選んであり、利用者の憩いの 場となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者 や家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのものを活かして、居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッドは備え付けのものを使用することが多 いが、自宅で使用した家具や生活用品が持ち 込まれ、安心して生活できるように配慮して いる。</p>		

は、重点項目。